

● 7月3日(月) 藻琴～摩周～野付～羅臼で誕生日祝い 曇 気温 12℃(寒い)

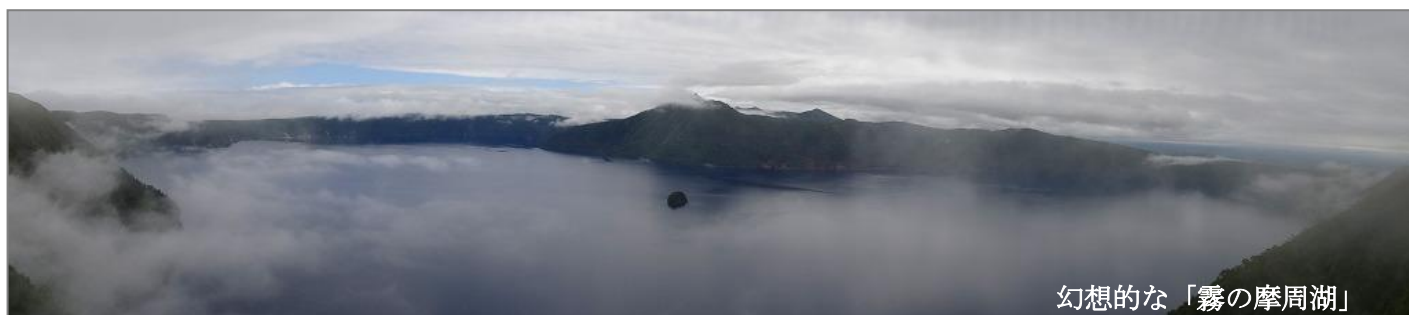
・今日も5時半起床。気温 12℃で寒い。外はどんよりと暗いが雨は降っていない。
昨日から天気が悪くなり、回復するのが5日ごろになるらしい。天気予報を眺みながらシレットコスミレを探しに硫黄山へ行く日を検討する。帰宅のフェリーが8日だからそれまでには登らないといけないうし、知床からフェリーの出る苫小牧港まで2日は見なければならぬ。とすると登る日は5日か6日しかない。と云うことで5日に硫黄山へ登ることにした。今日はこれから羅臼へ行って今夜は喜寿の祝いだ。

・8時に網走を出て、昨年霧で登れなかった藻琴山へ向かった。
なんと今年も藻琴山は霧の中。ここの霧は尋常では無くまさに一寸先も見えないほどの濃い霧だ。今年で4回目だが全て同じような霧で登ることができない。この山はいつ晴れるのだろうか？
とんでもない山だ！ 藻琴山をあきらめて摩周へ下った。



藻琴山はいつ来ても霧の中

・少し下ると雲の下に出て、摩周湖方面は晴れている。摩周湖の第3展望台から摩周湖を眺めたが、湖面に霧が漂い、摩周岳山頂には雲がかかっているが、中央の小島(カムイシュ島)は顔を出して、



幻想的な「霧の摩周湖」

なかなか幻想的な光景だ。私が摩周湖へ来るといつも晴れているが、こういう「霧の摩周湖」を見るのは初めてだ。

・道の駅「摩周温泉」で少し休んでから野付へ向かった。羅臼で会う予定の仙台のNさんから「尾岱沼のシマエビが旨い」との情報をいただいたので、是非味わってみたいと思った。国道243号線を東へ走り、標茶から道道13号線(中標津標茶線)に入って中標津へ向かう。天気が良くなり陽が差してきて暑い。単調な道を延々と走りうんざりして来た。ちょうど昼になり腹が減ったので中春別で公園を見つけて昼食(トロロソバ)を食べた。

・13時に道の駅「おだいとう」に着いて、駅のおばさんに「スジエビはどこで食べられる？」と聞いて、尾岱沼港の「海紋」を教えてもらった。

・ここ道の駅「おだいとう」は小さい駅だが2階と3階には北方展望塔・展望室があり、北方領土の歴史や返還に向けた過去からの取り組みなどを、映像・パネルで見ることができ、北方領土の自然・暮らしのパネルが展示され設置されていて望遠鏡で野付半島、国後島を見ることができる。何回か来ているがちょっと寄ってみたいくなる駅だ。



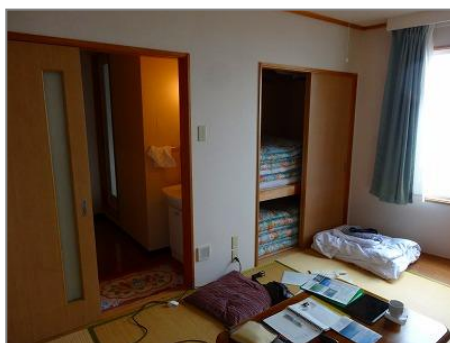
道の駅「おだいとう」

・教えてもらった尾岱沼港の「海紋」へ行った。野付漁港を一手に扱うでかい海鮮問屋だ。

お探しの「スジエビ」を 100g 試食させてもらった。確かに旨い。100g は結構ボリュームがあって腹が膨れた。エビが大好きな朋子へ 500g 送って尾岱沼を後にして、国道 335 号線を北に向かった。



・4 時前に羅臼町に入り、今日の宿泊ホテル「まるみ」に着いた。羅臼町の南の端に位置し、まあまあのホテル。フロントはおばあちゃんが一人でやっている。



一階の畳の部屋に案内されたが民宿みたいな部屋。
一応バス・トイレ付きだ。
羅臼のホテルなんてこんなものだろうな。

・まだ早いので風呂は一人でゆっくり入ることが出来た。鼻歌まじりで身体を洗っていると、とんでもない所に何か着いている。良く見ると「マダニ」だ！ 幌尻岳で食われたのだろう。もう 5 日も経っているし 2 回も風呂に入っているのに全く気がつかなかった。セメントでがっちり固定されていて取ることができない。風呂から出てハサミで切り落としたが、当然頭は食い付いたまま残っている。帰宅したらまた東名厚木病院のお世話になるか！

・6 時半から夕食。私の誕生日・喜寿の一人祝いだ！ 特別注文などしていないのに凄い料理だ。カニ、エビ、ホタテに刺し身や煮魚など、それぞれが凄い量なのに、それにバイキング形式の料理がいっぱい。皿いっぱいのカニだけで腹がふくれて、あとはかなり食い残した。生ビールに熱燗 2 本で喜寿の祝いをして一日が終わった。



● 7月4日(火) 羅臼から相泊へ寄ってウトロへ うす曇 気温 14℃

・4時に目が覚めてからウトウトし6時に起きた。昨夜は食い過ぎ、飲み過ぎでどうなる事かと思っただが目覚めは悪くないので一安心。

・仙台のNさんから電話が入り、「昨夜同じく羅臼で泊まった。これから霧多布へ行くので途中だから寄る。」と。8時半にNさんご夫婦がここホテル「まるみ」へ寄ってくれた。立ち話程度の時間だったが、元気なご夫婦に一年ぶりで、それも北海道の羅臼でお会いできて嬉しい限りだ。



・いよいよ明日はシレトコスミレを探して知床・硫黄山へ登る予定だ。天気もなんとか回復傾向にある。今日はウトロに泊って明日に備えよう。ウトロはここからは北へすぐだから、今から行っても早すぎる。地図を見ると知床半島の太平洋側には相泊と云うところまで道が入っている。行ったことが無いし、距離にして20km位だからちょっと行ってみようかと思った。

・9時半にホテルを出て、知床半島の東岸を走る道道87号線を北上した。北海道に10年以上も来ているのに初めて走る道なのでわくわくするが、一面濃い霧で覆われ視界がゼロに近い。車は殆ど走っていないが、それだけに視界が悪いといつ車が飛び出してくるかわからず、かえって危険だ。時速40kmくらいで注意しながら走った。

・しばらく走るとだいぶ霧が薄くなり走り易くなってきた。右手に海岸線を見ながらのんびり走ったが、道路はきれいに舗装されているし、車はほとんど走っていないので、30分も走ったらどん詰まりの相泊に着いてしまった。ここで道は無くなり先へは行けない。相泊は小さな漁港で、番屋がチラホラある程度。「相泊」のバス停があり民宿「くまやど」が1軒建っているが、民宿は戸締めしてあり人の気配が無い。今にもヒグマが飛び出して来そうな所だ。こんなところへバスで来て民宿に泊まる人がいるのだろうか？



ここがどん詰まり



バス停と民宿がある



相泊漁港(寂しい)

・ぐるっと見まわしたが特に珍しいものもなさそうなのですぐに今来た道を引き返した。道端に「相泊温泉」とあったので下りてみた。明治32年に発見された温泉だそうで、海岸にコンクリート製の四角い湯船がみえる。足を入れてみたがちょうど良い湯加減だ。周りには建物も脱衣場も何も無い。人も誰もいないのでひと風呂浴びても良い所だったが、足湯だけで引き揚げた。





相泊温泉

・少し走ると今度は「瀬石（せせき）温泉」が現れた。
 これも明治32年に発見されたそうで、
 ここには個人の家（濱沢政巳さん）が
 建っていて、その前の海岸に石で囲った
 まるい露天風呂が見える。
 この家の人管理しているらしいが、
 脱衣場も無い上に家の前だし、ちょっと
 入る気になれないな。



瀬石温泉



・この辺りは「昆布浜」と云うらしく、海岸には延々と昆布が
 干してあり、良く報道番組で見る「番屋」が点々と建っている
 典型的な知床の海岸だ。ここにヒグマでも居ればということないが、
 ヒグマの気配はなく、昆布干を干している人がみえる。



羅臼町に近づくと霧の晴れ間から
 羅臼岳が見えるようになった。

・知床横断道路（国道334号線）に入り真正面に羅臼岳の雄大な姿を眺めながら羅臼町の繁華街を
 知床峠に向けて走った。知床峠（標高738m）は晴れていてすばらしい展望が開けていた。この峠は
 今まで何回も来ているが、いつも深い霧の中で全く何も見えなかったが、今回は晴れてすばらしい景色
 を見ることができた。



・目の前には羅臼岳が聳え、その
 右手遠方には北方領土の国後島
 が見える。振り返ればすぐ目の前
 に天頂山があり、足元を見ると
 今登って来た羅臼町方面一面は
 雲海の下に隠れている。
 しばらく眺望を楽しんでから
 ウトロ方面へ下った。



振り返ると天頂山

天気が回復してきたので明日の硫黄山が楽しみだ。

・ウトロの手前に知床自然センターがあるので、硫黄山の情報を得るため再度寄ってみた。硫黄山の地図を購入して、登山ルートやシレットコスミレの様子などを聞いた。今回対応してくれた女性（畠山さん）は大変親切な方で、登山ルートや注意する点など懇切丁寧に教えてくれた。なんだか硫黄山に登れるような気がしてきたし、シレットコスミレに出会えるような気がしてきて、楽しい気分でセンターを後にした。



・時間はまだ早く 12 時を過ぎたばかり。どこかで昼食をとろうと場所を探しウトロ漁港に車を止めた。

昼なので漁港は閑散としており、のんびり昼飯を食べたが、陽ざしが暑くて閉口した。

・道の駅「ウトロシリエトク」に着いてから、暑くてたまらないので駅の舎内で過ごした。ふと見ると「WiFi が使える」らしい。パソコンを持ち込んでメールの整理や、写真の整理などをして過ごした。天気予報では、この晴天は今夜までで、明日は曇らそうだ。でも 8 日には苫小牧から帰途に着かなければならないし、遅くなればなるほどシレットコスミレが散ってしまう危険性が増すし、明日は曇っていても雨が降ることはなさそうなので、とにかく硫黄山へ行ってみよう。

・今 17 時半でまだ日は高いが、やることも無いし、明日は 4 時には出たいので朝が早い。そろそろ夕食にして早々と寝るか。ビールを飲み始めた。

・駐車場にはどんどん車が増えて来て、それも日本全国から集まっている。宮崎、北九州、岡崎、富山、練馬……。私の隣は長岡、前の方には横浜、福岡、滋賀のナンバーが見える。おやおや高知がやって来たぞ。何たることか！ 駐車場は日本中から集まった宿泊車で満車に近い。